

— 所沢飛行場ものがたり —

所沢飛行場の各学校

航空教育拠点としての所沢飛行場

所沢飛行場では、開設当時から臨時軍用気球研究会が陸軍気球隊に分遣して、空中観測偵察や飛行機操縦の教育を行っていました。第一次世界大戦後の大正8(1919)年、陸軍はフランスから航空教育団を招いて航空全般の体系的な教育に着手し、この頃から陸軍航空の近代化計画が始まり、所沢飛行場に航空学校が創設され、陸軍航空研究と教育活動の中核として大きな役割を担っていくことになります。

陸軍航空学校、所沢陸軍飛行学校

大正8(1919)年4月、所沢に陸軍航空学校が創設されました。臨時軍用気球研究会が行ってきた教育および研究活動を引き継ぐもので、主に航空機の操縦術と航空機工学の指導が行なわれました。陸軍航空学校は、大正13(1924)年に所沢陸軍飛行学校と改称され、同時に下志津陸軍飛行学校(千葉)と明野陸軍飛行学校(三重)も開設されましたが、教育・研究の中心は所沢陸軍飛行学校でした。軍備の拡張や教育の多様化などの理由から昭和12(1937)年9月30日に廃止されるまでの間、多くの操縦者や技術者を世に送り出しました。



陸軍航空技術学校

昭和10(1935)年8月1日、所沢陸軍飛行学校の機関科教育を分離して所沢に創立されました。航空機の整備や気象、補給に関する教育の他、航空技術の実務に関する調査や研究を行い、航空技術分野では先駆的な学校でしたが、昭和14年に立川へ移転しました。



陸軍航空整備学校

航空機の整備兵を養成することを目的に、昭和13(1938)年6月30日に所沢に創設されました。航空学では航空機整備が最も重要な部門であるにもかかわらず、適当な施設が当時の日本には全くなかったため、陸軍航空整備学校は重要な役割を担っていました。昭和18(1943)年8月1日に学校名を所沢陸軍航空整備学校に改称しました。

